

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	◆水明インターネット句会◆ 令和八年二月
春雪に足音残し投票へ	空風や大平原を席卷す	君の指触れなば解くる春の月	空港に雑魚寝のひと夜猛吹雪	春疾風走る球児を遠く見て	子の世話になるはまだ先大根干す	丹頂は湖畔の宙を鳴らしをり	息白しリボン結びの道中着	ふくよかな陽を浴びてをり鳥の恋	春色の卵や母のさしすせそ	囀が入りて季寄せの軽きこと	凍空や親仁湯切りのてぼを振る	鳥打ちを阿弥陀に行かむ風生忌	寒椿一人娘のように咲く	球面に刹那の世界石鹼玉	下萌を猫しなやかにパトロール	石鹼玉昔と変わらぬ裏露地よ	シーソーや一歩進みて猫の恋	皺の手を合わす卒寿や寒卵	金箔のひとひらのせて桜餅	

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	◆水明インターネット句会◆ 令和八年二月
春の雨止む頃鳥は寝てしまふ	春浅しソプラノ響くシニア猫	黒光る海苔を透かせばほの緑	積もる気はありやなしやと名残り雪	囀りや木木も言の葉溢したり	野暮じじいなれどそわそわ春を待つ	春立ちて旅の計画目白押し	いぬふぐりあだ名で呼ぶな俺のこと	マフラーに猫の毛つけて帰す朝	重くても負はねばならぬ秋子の忌	コインランドリーの左廻りや春の雪	待ちわびる氏子の願い御神渡り	青き踏む老いの自由に胸を張り	春の雪選挙結果は消えやすく	鱵の銀武勇伝語る三杯目	雪しまきいつしか時を忘れけり	靴に豆いたずらっ子の福は内	春の夢誰彼の顔若きかな	淡雪や箒目埋むる龍安寺	ここからが生まれ故郷や花水木	

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	◆水明インターネット句会◆ 令和八年二月
冬ぬくし欠伸うとうと昼下り	雪の城会津の酒は潔し	受験子を待つ母の手にぎり飯	「小選挙区」の幟高きや雪だるま	寒昂摩天楼縫ふ深夜バス	父遺す茶杓の反りや利休の忌	マンションやひとつひとつの春燈	空焦げて獣伏すごとき野焼かな	蠟梅や空にはためく風の影	元町や舶来めきし春コート	つまらなきこの世に句点梅見かな	父唄い母の頬染む今年酒	盛っ切りの香る新酒やあては塩	冬ごもり衿付け替える長襦袢	器用とは言へぬ生き様目刺焼く	寒牡丹触れて耳裏熱くする	道聞けば柳髪めぐり雪女	硝子絵の青きキリスト日脚伸ぶ	春近し猫に大きな鈴付けて	しろきよのいろあるものは梅ひとつ	

